
僕と現実と黒衣の怪人達

時流 幌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と現実と黒衣の怪人達

【Nコード】

N0898Q

【作者名】

時流 幌

【あらすじ】

高校受験を間近に控えた少年は無味乾燥な中学校生活を振り返り、思い出した。黒衣の怪人の噂を・・・

（前書き）

ここで初めて書いた小説で、

まだまだお見苦しい所はあると思いますが、

どうぞ最後まで読んでいただきたいと思います。

できれば感想なども書いていただければうれしいです。

現実とは、無味乾燥なものである。

少なくとも僕にはそう感じられた。

季節は冬、もう少しで高校受験というときに、

僕は、木枯らしの吹く駅前道をぶらぶら歩いていた。

意味は特になかった。

しばらく歩くと鬼気迫る表情になりながら、塾へ入っていく集団を見つけた。

持っていた鞆は重そうだった。

「あゝあなにやってんだろ・・・」

そう呟いてみたが、この空しい気持ちは何も変わらなかったのだった。

家に戻った。

「ただいま」

そう言ったが、母がいるであろう台所から変えってきたのは、

「ただいまじゃないわよ。勉強はどうしたの？」

宿題は？もう高校受験でしょ？今までなにやってたの？」

と言言葉だった。

もちろん台所は素通りした。

部屋に戻った。

ここだけが心の休まる場所だった。

黒い制服を脱ぐと、

「分かってるよ・・・」そう呟きながら椅子に座り、机に突っ伏した。

そんなことは分かっていた。

勉強しなければならぬことは。

成績は中の上。志望校にぎりぎり届く程度。
油断・・・とも違う中だるみ。

僕だって受験に近づく前は良く勉強していた。

中学校時代を振り返ってみた。

まさに無味乾燥だった。

やっていたことといえば勉強ばかり。

彼女も出来ない。友人は出来たが、最近、あまり話さなくなった。
受験のせいだろうか。

クラスの中でも孤立していた、普通の市立の中学であつたので、
他のクラスの面々は高校受験に備え、熱心に勉強していた。

彼らにとって、勉強にあまり熱心でない僕は、異質な存在だったのであろう。

そして僕は今、潤いを求めている。

そんな中、思い出したことがあつた。

僕の中学には、黒衣の怪人達の噂があつたことだ。

受験期、つまりは冬、夜中に学校へ入ると、黒い服の人々に会えるというものだった。

そして、会つと受験が上手くいく、と言うものらしかった。

聞いたときは下らないと思った。高校に受かるように、との願望が重なって出来た

妄想の産物だと。

10分後、僕は校門の前に居た。

黒衣の怪人を信じる気持ちは毛頭なかったが、

心に潤いをもたらしてくれるかも知れない。という可能性だけで十分だった。

制服は着てきた。侵入がばれたときに忘れ物を取りに来た。といえるからだつた。

夜闇の中では一層、制服は黒く見えた。

学校に入った。薄暗く、人の痕跡のない校舎は、不気味になった。
下駄箱・・・居ない。

1階・・・居ない。

2階・・・宿直の先生の影を見つけた。そういえばこの学校は珍しく先生の宿直があつた。

それから足音に気を付けながら階段を上っていった。ここまで来て引き返してたまるか。

3階・・・居ない。

最後の希望の4階は・・・

居ない。

何だガセじゃないか。

そう思うと無性に悲しくなった。

今来た階段を引き返した。

1階に戻ってきた。

すると、廊下の角からなにやら話し声が。

声の元まで急いで駆け寄っていった。

まさか――

本当に――

そこに居たのは、黒い制服を着た友人達だった。

いや、暗くてよく見えないが奥のほうには、まだまだ人が居るらしかった。

その人々も黒い制服を着ていた。

「おいこつち来いよ」お前も怪人追ってきたのか？皆も来たらしくてな

このまま帰るのもアレだからよ。一緒に集まってたんだ。勉強も飽きたしさ。

お前も来るか？」

そう友人は言っていた。

なるほど、黒衣の怪人達ってそういうことだったのか。

そう考えながら、

足は動いていた。

向こうに行くか行かないかはもうとっくに決まっていた。
今夜は久々に楽しい夜になりそうだった。

(後書き)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0898q/>

僕と現実と黒衣の怪人達

2011年1月16日10時00分発行